

**救急法及び
ヘリ救護訓練について
(森林技術センター)**



労働衛生週間の準備期間にあわせて、災害が発生した場合に、迅速かつ的確に対応が出来る緊急連絡体制等をより一層強化することを目的に、救急法及びヘリ救護訓練を実施しました。

今回は、九月七日と一日に分けてそれぞれ行い、救急法については、九月七日に本川プラチナ交流センターにて長沢地区の現場職員及び嶺北署森林官並びに森林組合等総勢二〇名で仁淀消防組合吾北分署職員の指導のもと、現場での対応法としてタンカの作り方や止血法等を教わりました。

また、マネキンを使っての心肺蘇生法についても一人ずつ体験指導を受け、最後は汗が出るほどで有意義な講習となりました。

一方、九月一〇日には、長沢詰所職員による奥南川山国有林内の試験地で刈払中に落石による全身打撲で一人が意識不明になったとの想定のもと、緊急連絡体制マニュアルにもとづいてのヘリ救護依頼の訓練を行いました。

現場の衛星電話から消防署への連絡や防災ヘリの誘導及びセンター本所での連絡が迅速かつ的確に実施させることを目的とした訓練です。

訓練終了後、航空隊の方より消防署との電話のやりとりや、ヘリの誘導等が的確にできていたとの講評がありました。

最後に、いつでも、だれでもが対応できるように緊急連絡体制の確立を図れるよう今後とも訓練していくことをみんなで誓い合いました。



担架での搬送訓練

各地のたより

**林業(下草刈り)体験
〈ふれあいセンター〉**

九月五日、大道(おおど) マツ再生事業として取り組んでいる高知県四万十町古屋山国有林において、地元大道地区、四万十高校生等一八名の参加により、「林業(下草刈り)体験」を行いました。

試験地の登山道入口でバスを降りた参加者は、一五

分程歩道を歩き現地へ到着、そこで、再生事業地を見ながら大道マツの話や事業の説明を受けた後、林内での歩き方、鎌の使い方、作業方法等の注意を受け、下草刈りの作業に取りかかりました。

地元の経験者は順調に刈り進むものの、高校生は足元が滑ることと鎌の使い方になじめないことから、少し遅れ気味でしたが、慣れてくるとスピードアップし、予定していた時間内に無事に作業を終えることができました。

また、午後からは日本最古の複層林(四万十町小椎尾山国有林)へ移動し、上層木が植えられてから今年で二〇〇年経過しているとの説明に驚くと同時に、そのパワーを感じていました。

参加者からは、「下草刈り作業はとても暑かったが、

終わった時の達成感はずばらしかった」とか、「複層林は二〇〇年の鼓動を感じパワースポットのような」との感想を頂きました。

ふれあいセンターでは、今後ともこうした取組を通じ、地元と一体となった「大道マツ再生」を進めて行きます。



高校生も頑張ってます

**木エクラフト
「もっとやりたいよ!」
〈ふれあいセンター〉**

当センターでは、サクラやヒメシヤラの小枝などを活用し、木エクラフト作りを通して、木の利用を考え

たり森林や自然環境への関心を高めてもらおうと、出前の木工教室を開催しています。

九月六日は、土佐清水市立清水小学校五年生七〇名、一四日は、四万十市立津野川小学校全校児童一九名を対象に、動物の置物や携帯ストラップなどの作り方を指導しました。

始めに、当センターの概要や森林の働き、道具の安全な使い方の説明して木工クラフト作りに取りかかりました。

いざ始めると、「何を作ろうかな？」と悩んでいましたが、見本通りにカブトムシや動物のストラップなどを作ろうとする児童、全く独自の発想で作り始める児童と様々でした。それでも約一時間程度と短いながらも作品が次々に完成すると、皆、とても満足そうな表情でした。

「木工クラフトは止められないほど楽しかったので、もっとやりたい」などの児童の声が聞こえました。今回の木工クラフトを通じて、家庭でも小枝を利用して物作りを経験してもらいたいものです。



チョウ！楽しい

**ふれあいの森で
下刈り作業体験**
〈高知中部森林管理署〉

八月二十八日、当署管内別府山国有林ふれあいの森で「物部川二一世紀の森と水の会」が募るボランティア一八名が下刈作業を行いました。

汗ばむ陽気の中、署長の

あいさつと作業内容の説明を終えた後、早速作業を開始しました。

作業開始から、一時間もすると服がぐっしよりと濡れるほど汗をかいている参加者もいました。各人それぞれ、休憩を取り、水分補給を十分に行いながらゆつくりと作業を進めていきました。

午後三時過ぎにようやく全区域での作業を終え、閉会の際には「植樹の時から参加しており、自分が植えた苗木が育っているのを見ることができて嬉しかったです」。「森を維持するには時間と労力を要することが体験できた」等の感想が聞かれました。

当該箇所は冬の寒さや風の害を受けやすく苗木の活着率は芳しくないものの、数年前に植えたヤマグリが実を着けているのを見ると、作業の疲れも吹き飛び、今

後の木々の成長が楽しみになりました。



下刈り作業の説明

森の大切さをPR
〈高知中部森林管理署〉

八月二一日、香美市立図書館で香美市の小学生を対象に図書館祭りが行われました。

今年のテーマは「森の図書館」と銘打っており、森林の大切さを子どもたちに知ってもらいたいとのことで、当署が講師派遣の依頼を受けたものです。

参加者は小学校低学年が多かったため、日本の森林の現状を物語にした紙芝居

「森」を披露し、森林の手入れの仕方や間伐の重要性について理解してもらいました。また、森林をより身近に感じてもらうために、香美市の山中で撮影したニホンジカ、カモシカ、キツネなどの写真を見せると子どもたちだけでなく保護者からも興味深げに見入っていました。

その後、当署手作りの木製キットを利用しフクロウの壁掛けを作りました。子どもたちは各々の作品の出来栄に満足した様子で、夏休みの宿題ができたこと喜んでいました。



紙芝居「森」



安芸森林管理署

魚梁瀬森林事務所

首席森林官 門脇 順一

魚梁瀬森林事務所は、高知県東部、千本山で有名な馬路村魚梁瀬にあり、馬路村、北川村の二村に三、一二三杉を管理しています。魚梁瀬集落は一九六四年魚梁瀬ダム移転に伴い丸山台地として造成されダム左岸の湖畔にあり一―一世帯、二一九名の集落です。春の桜祭り、秋の神祭、心臓破りマラソン大会等々地域一丸協力し盛上げ、何をするにも信頼と互譲で村全体がまとまっています。この一角（標高四八八）に二〇〇四年三月組織再編により、

魚梁瀬、西川、東川森林事務所及び治山事業所の合同事務所が新築され現在に至っています。合同事務所周辺では、春先には「ヒュルルーヒュルルー」と鳴くアカシヨウビンや初夏にかけては「シロペン、クロペン」と聞こえるヤイロチョウの鳴き声が聞かれたり林道を通行しているとニホンカモシカの親子や、ニホンジカにも出会える等自然豊かな所です。当森林事務所は、大半がスギを主体とした育成途上の人工林となっています。林内には所々に当時活躍した森林軌道のレールが見られ往時が偲ばれます。定員内職員二名、基幹作業職員

三名で除伐、保育間伐などの造林事業、測定事業、鹿ネットの点検補修等の獣害対策の作業を主として行っています。また、昨年からバックホウレンタルによる林道整備を台風シーズンを迎える夏場とシーズンが終了する秋口に行っています。が重機操作も上手くなり呑口の土砂取除、盛土横断溝の設置等、効率よくきめ細かな林道整備が行われています。二〇〇三年以降無災害が継続され、しかも現場職員の方々の協力により計画が一〇〇%達成され、時には冗談も言いながら日々わきあいあい過ぎさしていただいております。今後とも災害のない明るい職場作りに努めなければと常々思っています。



ニホンカモシカ

官及び森林官、治山事業所主任等と十分な疎通を図り事業が計画的に進むため率先垂範し、若手職員の人材育成等大きな使命を負っていると考えつつも果たしているか反省させられています。私は、定年退職まで残り数ヶ月となりましたが、もう一度やってみたいと思っていた森林官を、自然豊かで人情溢れる魚梁瀬の地で努めさせていただき大変感謝しております。

